

屋内に堆積した稲藁と螟蛾発生との関係調査

池野 早苗

(新潟県農業試験場白根農場)

当場では昭和33年以降、前年度産の稲藁から発生するニカメイガの数を、次に述べる方法で調べているが、昭和34年度の成績は下の通りであつた。供試した稲藁は、ヤチコガネ10a分、重量540kg、農林43号5a分(ただし、全部俵に製作したるもの)重量280kgで、方法は上記材料を間口12.5m、奥行7.2m、高さ5.5mの作業場の片隅に堆積し、圃場のほぼ中央に誘蛾灯を設置し、誘設した蛾数を雌雄別に調査したもので、その調査期間は5月21日から6月末日までである。昭和33年度の圃場におけるニカメイチュウ1化期の発生状況は、発蛾した数量並びに発蛾期間は平年並で、最盛期は6月7日。2化期は全体の発蛾量は平年よりやや少なかつたが、発蛾初期は早く、最盛期も約1週早まつて、7月27日と記録され、かつ、8月下旬から9月上旬にかけて、再び予察灯への飛来は増加した。ニカメイチュウに対する薬剤散布は、1化期6月27日及び7月11日、2化期が8月8日で、いずれも、EPN粉剤10aあて3kgを背負式動力散粉機で散布した。1化期2回目散布の遅延したのは、早期に発生したイネカラバエ駆除もあわせて行つたためである。かくして、収穫期におけるニカメイチュウの被害は、都合上、被害茎の調査は省略したが、大体軽少と観察されるようである。

誘蛾灯の規格は湿式、電灯60W、水盤の大きさ径60cm、深さ6cm、水盤の高さ90cm、電灯水面間距離18cm、1回に使用した灌注剤量(石油)18ccである。なお、本試験には、中蒲原郡病害虫防除所における予察灯の調査成績を、参考までに借用、掲載したが、その予察灯様式は乾式、電灯の高さ地上1.2m、設置した場所、當場東北方10kmの位置、平坦部で、場所は新津市古田である。

上記方法による調査結果は第1表の通りである。

この表によれば、15a分の稲藁から誘殺した蛾数は、雌雄あわせて3,489頭に及び、これを10aあてに換算すると2,322頭となる。ただし、本成績は、発蛾初期、終期当時のものを除外してあるので、実際の数字はわずかにこれを上廻るものと見てよからう。33年度調査の10a分稲藁から誘殺した蛾数は4,422頭というはるかに多い数字を示したが、これは、前年度2化期に薬剤散布をしなかつたこと並びに比較的遅発生蛾の多かつたため、後期に酷い被害を受けたのに帰因すると推察される。いま、32年度圃場におけるニカメイチュウの発生状況並びに薬剤散布について略述すると次のようであつた。

1化期：発蛾初期やや遅れ、盛期は6月14日、発生量やや多。7月1日ホリドール粉剤を10aあて3kg散布

第1表 日別誘蛾数の消長

調査月日	当 場				郡 防 除 所			
	♀	♂	計	半旬別合計	♀	♂	計	半旬別合計
5月2半旬	—	—	—	—	0	10	10	10
5月3半旬	—	—	—	—	27	52	79	79
5月4半旬	—	—	—	—	17	204	221	221
5. 21	0	0	0	—	11	115	126	—
5. 22	1	0	1	—	0	16	16	—
5. 23	3	2	5	—	1	0	1	—
5. 24	10	10	20	—	7	68	75	—
5. 25	0	8	8	34	15	69	84	302
5. 26	11	27	38	—	10	33	43	—
5. 27	14	54	68	—	23	77	100	—
5. 28	34	82	116	—	5	38	43	—
5. 29	65	94	159	—	15	86	101	—
5. 30	143	152	295	—	32	49	81	—
5. 31	195	184	379	1,055	0	0	0	368
6. 1	71	121	192	—	14	97	111	—
6. 2	119	177	296	—	1	44	45	—
6. 3	107	206	313	—	9	58	67	—
6. 4	93	131	224	—	6	29	35	—
6. 5	89	182	271	1,296	0	7	7	265
6. 6	51	99	150	—	41	29	70	—
6. 7	57	104	161	—	8	23	31	—
6. 8	44	126	170	—	15	32	47	—
6. 9	52	58	110	—	8	50	58	—
6. 10	15	63	78	669	0	0	0	206
6. 11	10	24	34	—	4	19	23	—
6. 12	6	7	13	—	0	2	2	—
6. 13	20	36	56	—	9	25	34	—
6. 14	49	63	112	—	11	68	79	—
6. 15	23	36	59	274	11	35	46	184
6. 16	13	16	29	—	3	17	20	—
6. 17	10	12	22	—	14	61	75	—
6. 18	7	13	20	—	4	52	56	—
6. 19	11	15	26	—	4	14	18	—
6. 20	9	8	17	114	4	35	39	208
6. 21	7	12	19	—	5	10	15	—
6. 22	4	0	4	—	4	5	9	—
6. 23	4	1	5	—	8	10	18	—
6. 24	4	0	4	—	1	8	9	—
6. 25	2	0	2	34	3	2	5	56
6. 26	0	2	2	—	0	1	1	—
6. 27	1	1	2	—	2	2	4	—
6. 28	2	4	6	—	1	0	1	—
6. 29	1	1	2	—	0	0	0	—
6. 30	1	0	1	13	3	0	3	9
7月1半旬	—	—	—	—	0	0	0	—
7月2半旬	—	—	—	—	0	0	0	—
合 計	1,358	2,131	3,489	—	356	1,552	1,908	—

郡病害虫防除所成績の発蛾初期は5月8日、終期は6月30日。

した(背負式動力散粉機使用)。

2化期：1化期同様、発蛾初期におくれ、盛期は8月14日(平年より10日遅延)、数量は平年並であつたが、8月7日及び22日の両回、予察灯への飛来は、かなり多く、8月下旬より9月中一下旬にかけて、供試の中晩一晚生種は意外な被害を蒙つた。散剤散布は、イネアトム駆除を主体にして、8月1日BHC(3%)粉剤を10aあて3kg散布したのみ。

なお、本調査を10kmはなれて設置した予察灯のそれに比較することは問題であるが、参考的に記すと、蛾の発生消長は、ほぼ類似したが、屋内では発生が正しい曲線をなしたこと、かつ、幾分遅延した傾向のあることが窺われた。